

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成29年7月12日(水) 5校時
児 童 第3学年 女5名 計5名
指導者 教 諭 中 村 明

1 単元名 ファンタジー作品を読んで、かんじたことを発表しよう

2 教材名 中心教材 「もうすぐ雨に」(光村図書3年上)
補助教材 妖精ケーキはミステリー(ポプラ社)
ドールハウスはお化けがいっぱい(ポプラ社)
学校ウサギをつかまえろ(偕成社)
ふしぎの時間割(偕成社)
カモメがくれた三かくの海(日本標準)
くろねこのどん(理論社)
そいつの名前はエメラルド(金の星社)

3 単元の目標

○ 物語の中で起こる出来事に興味をもって読もうとしている。

[関心・意欲・態度]

◎ 文章を読んで感じたことを話し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。

[読むこと オ]

○ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちや行動について叙述をもとに想像して読むことができる。

[読むこと ウ]

○ 自分の感想を表す言葉を増やすことができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(オ)]

4 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、読書が好きな子どもが多く、少しの時間を見つけては本に親しむ姿が見られる。しかし、自分の好きなシリーズやジャンルの本を続けて読むことが多く、読書の幅がなかなか広がらない子どももいる。

国語科の物語文の学習では、登場人物の気持ちを考えながら読む子どもが多い。「きつきの商売」では、二つの場面の様子や違いに着目しながら、野うさぎや野ねずみの家族がどんな気持ちになったのかを想像しながら読み進めた。叙述を基に登場人物の気持ちを読み取ったり想像したりする力が少しずつ付いてきている。

子どもたちは、自分の考えや思いを伝えたいという気持ちはあるが、理由を付けて自分の考えを話すことに苦手意識をもつ子どもが多かった。そこで、意図的に話す場を設定し、話し合うことを

大切にしてきたところ、自分の考えを伝え友達の考えと比べることで考えがつながっていくこと
のよさに気づき、楽しく思う子どもも少しずつ増えてきた。また、課題について根拠を示しながら自
分の考えを話したり、自分の考えと友達の考えを比べて聞こうとしたりする姿勢も少しずつ身に付いて
きている。しかし、話し合いの中でよりよい考えを選択したり、新しい考えを創り出したりする力
は、まだ十分とはいえない。

(2) 学習材観

ア 中心学習材

第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の目標は「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互
の関係を考えたりしながら読む能力を身につけさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育
てる。」である。これを受けて本単元では「読むこと」の内容「オ 文章を読んで考えたことを発表
し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。」の中でも「考えを交流し合い、
感じ方の違いに気付く力」「作品のよさを見つける力」を育てていきたいと考える。

本単元の中心学習材「もうすぐ雨に」は、初めは動物の話が聞こえるという現象を信じることがで
きなかつた「ぼく」が、最後には生き物も自分と同じように感情をもち、それぞれの都合や生活が
あると考えることができるようになる物語である。「チリン」という音が合図になり、生き物の会話が聞
こえるという仕組みは子どもにも分かりやすく、似たエピソードが繰り返されるという構成から、「ぼく」
を通して、子どもたちは無理なくファンタジーの世界へ入っていくことができる。

また、場面の移り変わり（起承転結）が明確で、子どもたちが登場人物の心情の変化を理解しやす
いお話である。場面の移り変わりに注意して読み進めることで、子どもたちが、叙述を根拠に主人
公の人柄を読み取ったり主人公の気持ちの変化を考え一人一人の考えに気付いたりできる教材であ
る。

イ 補助教材

「妖精ケーキはミステリー」（ポプラ社）

「ドールハウスはお化けがいっぱい」（ポプラ社）

「学校ウサギをつかまえろ」（偕成社）

「ふしぎの時間割」（偕成社）

「カモメがくれた三かくの海」（日本標準）

「くろねこのどん」（理論社）

「そいつの名前はエメラルド」（金の星社）

(3) 指導観

ア 言語活動とその特徴

この単元の言語活動の柱は「ファンタジー作品を読んで、感じたことを発表する」（言語活動例
ア）である。感じたことを表現するための要件は、心に残った文や文章とその理由・感じたことを
表現する言葉・自分が感じたことと比べながら友達の発表を聞くこと等である。自分の感想を明確
に表現するためには、物語のあらすじをとらえる力、作品のよさを見付ける力、感想を表す言葉を
増やし使う力、感想が本や文章のどの叙述に基づいているのかを説明する力、考えを交流し合い、
感じ方の違いに気付く力が必要である。

このような力をつけるために、分かりやすいカードの構成を考え、主体的にカードを作成できるようにする。カードの構成は、題名・作者名・登場人物・あらすじ・主人公の人柄・主人公の気持ちの変化・心に残った記述と感想とする。

研究主題との関連

手立て1 指導事項の明確化

- 本単元で付けたい力
- ・考えを交流し合い、感じ方の違いに気付く力
 - ・作品のよさを見つける力
 - ・感想が本や文章のどの叙述に基づいているのかを説明する力
 - ・感想を表す言葉を増やし使う力
 - ・物語のあらすじをとらえる力

手立て2 指導過程に言語活動を位置付けた単元構想の工夫

- 目的、相手意識
- ・目的・・・読んで感じたことを交流し、感じ方の違いに気付く
 - ・相手・・・3年生の友達
 - ・二次の工夫・・・中心教材での習得、補助教材での活用

イ 単元の流れとして

第一次においては、まず、不思議な出来事が書かれている物語を読み聞かせてその特徴に気付かせ、興味をもたせる。「不思議な出来事が書かれている本を読み、カードで紹介しよう」という言語活動を位置付け、目的は、読んで感じたことを3年生の友達と交流し、お互いの考えの違いを楽しむこととする。紹介するために必要な要件を話し合い、不思議なことが書かれている本を読み、おもしろいと思ったところ・不思議だと思ったところなどが紹介できるような学習計画を立てる。図書館司書に選書していただいた不思議なことが書かれてある本を学級文庫に並べ、並行読書したい本を選ばせる。また、「もうすぐ雨に」を通読し、「おもしろいところ」「不思議に思ったところ」「一番心に残ったところ」を視点として感想を出し合い、疑問に感じたことや話し合いたいことなどを引き出し、課題につなげるようにする。

第二次では、「もうすぐ雨に」についてまず、題名・作者名・登場人物・あらすじ・主人公の人柄をおさえ、場面の様子の変化をもとに、物語を起承転結の四つの場面に分ける。次に、動物の声が聞こえるようになった主人公の気持ちの変化について話し合い、おもしろい、好きだと感じたことを感想に書き、紹介カードを作成する。主人公の人柄やあらすじ、気持ちの変化などについてお互いの考えを交流しながら、一人一人の感じ方の違いに気付かせていくようにする。話し合いを充実したものとするためには、まず、自分の考えをしっかりと形成させるために、心情曲線を書かせるなど自分の考えを表現することのできる学習シートを準備する。また、教師が児童の発言を板書に残し、友達の考えと自分の考えの違いに気付くことができるような支援が必要と考えている。

第三次では、第二次の学習をもとにした、並行読書した本の紹介カードを作り、交流会をする。

5 指導計画（9時間扱い）

次	時間	学習活動	主な評価規準
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「もうすぐ雨に」を読み、登場人物や場面の数など作品の設定を確認する。 ○「おもしろいところ」「不思議に思ったところ」「一番心に残ったところ」の3つの観点について、初発の感想を書き、交流する。 ○単元のめあてを確かめ、発展学習（おすすめの本の紹介カード）について、教師が作成した見本の紹介カードをもとに確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで物語を読み、感じたことを伝えようとしている。 <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○「不思議な出来事」が起きる本を選んで、並行読書始める。 ○並行読書する本は、本人用と学級用の2冊を用意し、みんなでお互いに目を通し、一言感想カードの「読書のあしあと」に記録するとよいことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を考えようとしている。 ・並行読書するための本を選び、読んでいる。 <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p>
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> ○話のあらすじをつかみ、主人公の会話や叙述を抜き出し、主人公の人柄について考えを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の会話や叙述から受ける人柄について、自分と友達の考えの似ている点や違いに気付いている。 <p style="text-align: right;">【読む能力 オ】</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○不思議な出来事に出会った主人公の気持ちの強さ（不思議な出来事を信じる気持ち・不思議な出来事に出会い、わくわくする気持ち・不思議な出来事を、さらに不思議に思う気持ち等）を心情曲線に描かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の不思議な出来事に対する気持ちを、心情曲線に表すことができる。 <p style="text-align: right;">【読む能力 ウ】</p>
	5 （本時）	<ul style="list-style-type: none"> ○前時に描いた心情曲線について、なぜ、そのような心情曲線になったのか理由を説明させる。 ○友達の考えと、自分の考えの似ている点や違いについて比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちの変化について、自分と友達の考えの似ている点や違いに気付いている。 <p style="text-align: right;">【読む能力 オ】</p>

	6	<p>○「おもしろいな」「すきだな」と思ったところを書き出し、理由とともに感じたことをまとめ、交流する。</p> <p>○「もうすぐ雨に」の「題名・あらすじ・主人公の気持ちの変化・おもしろい、すきだと思ったところ」を書き込んだ、「『もうすぐ雨に』紹介カード」を作る。</p>	<p>・「おもしろいな」「すきだな」と思ったところについて、自分と友達の考えの似ている点や違いに気付いている。</p> <p>【読む能力 オ】</p> <p>・自分の感想を表す言葉を増やすことができる。</p> <p>【伝国 イ(オ)】</p>
	7	<p>○「もうすぐ雨に 紹介カード」を完成させ、「もうすぐ雨に」の交流会をする。</p>	<p>・同じ物語でも、感じ方について似ている点や違いがあることに気付いている。</p> <p>【読む能力 オ】</p>
第三次	8	<p>○並行読書した本の「題名・あらすじ・主人公の気持ちの変化・おもしろい、すきだと思ったところ」を書き込んだ「おすすめの本の紹介カード」を作る。</p>	<p>・並行読書した本を読んでおもしろい、すきだと思った言葉や文を抜き出し、感想をもっている。</p> <p>【読む能力 オ】</p>
	9	<p>○「紹介カード」をもとに、本の紹介をする。</p> <p>○友達の本の紹介を聞き、自分が書いた「読書のあしあと」のメモと比べて、感想を話す。</p>	<p>・読んで感じたことを話し合い、感じ方について似ている点や違いに気付いている。</p> <p>【読む能力 オ】</p>

6 本時の指導（第2次 単元の5時間目）

(1) 目標

- ・主人公の気持ちについて話し合い、自分と友達の感じ方の似ている点や違いに気付くことができる。

【読む能力 オ】

(2) 具体の評価

読む能力	
主な評価規準	支 援
・主人公の気持ちについて話し合い、自分と友達の考えの似ている点や違いがあることに気付いている。	・児童の発言を教師が紙板書に書き、視覚化することで、自分の意見と似ている点や違いを板書で確かめることができるようにする。

(3) 展開

	学 習 活 動	ポイント・評価
つ か む 4 分	1 小テスト 2 前時のふりかえり 3 本時の学習場面と学習課題を確認する。 「ぼく」の気持ちを、自分と友だちの考えとくらべよう。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習を振り返り、今日の話し合いへスムーズに入っていくようにする。 「気持ちグラフ」(心情曲線)をもとに、「ぼく」の気持ちの変わり方について発表すること、「ぼく」の気持ちが一番強くなったところについて、自分の考えと友達の考えを比べ、似ている点や違い、なるほどと思ったこと等について交流することを確認する。
ふ か め る 3 4 分	4 「ぼく」の気持ちについて話し合う。 (1) 自分が描いた「気持ちグラフ」(心情曲線)をもとに、「ぼく」の気持ちがどう変わっていったのか、出し合う。 (2) 「ぼく」の気持ちが一番強くなったところについて、自分の考えと、友達の考えで、似ているところやちがうところ、なるほどと思ったこと等を出し合う。 (3) 友達の発表を聞いて思ったことを、ワークシートにまとめる。 (例) <ul style="list-style-type: none"> 〇〇さんと自分の考えは、□□なところがにているけれど、●●さんと自分の考えは、■■というところがちがうと思った。 にたような気持ちグラフでも、気持ちの強さや、そう思ったわけがちがうことがわかった。 □さんの●●という意見を聞いて、なるほどと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 進行は次第に沿って、国語リーダーが行う。教師は主に児童の発言の要点を板書に視覚化する・根拠となる叙述や理由などが分かりやすくなるように質問する、等の支援をする。 心情曲線を、「気持ちグラフ」と言う。 話し合いの焦点化をはかるため、「ぼく」の気持ちが一番強くなったところを、お互いに質問させ、叙述を根拠に答えさせる。 教師は児童の発表の要点を紙板書で視覚化する。 友達の考えを聞いて、自分の考えのよさ・友だちの考えとの違い・なるほどと思った友達の考え等をワークシートに書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>具体的評価B</p> <ul style="list-style-type: none"> 主人公の気持ちについて、自分と友達の考えを聞き、似ている点や違いがあることに気付いている。 <p style="text-align: right;">【読む能力 オ】</p> </div>
ふ り か え る 7 分	5 本時の学習を振り返る。 (1) 学習の振り返りをし、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> わかったこと・できるようになったこと。 どうやってできた(わかった)のか。 (2) これからやってみたいこと。 6 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習で、自分ができるようになったこと、わかったこと等を書く。 <p>*次時の学習を簡単に確認する。</p>